

イギリス 公衆衛生スタディツアー

訪問先：ロンドン、サウサンプトン、ケンブリッジ

活動期間：2016年3月14日～3月20日

足立奈緒子（健康科学コース4年）、井上薫子（看護学コース4年）、岩崎望（健康科学コース3年）、大平沙京（健康科学コース3年）、大野昂紀（健康総合科学科2年）、松本彩伽（健康総合科学科2年）
引率 佐々木敏先生（社会予防疫学教室）

渡航先での活動内容

1日目：CASH訪問

--Consensus Action Salt and Health--

日本の食塩摂取状況について私たちからPresentation!
現地研究者より聞く、イギリスが減塩に成功した理由とは??

食品産業の協力を得られたことがCASHによる減塩成功の鍵だった!



Why CASH?

CASH was set up in 1996 following the rejection by the Government of an expert committee's recommendation to reduce salt intake and claims by the food industry at this time that the evidence about salt was not clear.

We countered these claims with a wealth of scientific evidence which clearly links high salt intake to raised blood pressure and other adverse effects on health. Now both the DoH and the FSA both back the need for a reduction in salt intake across the whole UK population. At the same time, we were able to persuade many of the major supermarkets and food manufacturers to adopt a policy of gradually reducing the salt content of their products and this strategy has now been adopted very successfully by the Food Standards Agency.



Heading for Cambridge!

3日目：ケンブリッジ大学訪問
--MRC Epidemiology Unit--
ハリーポッターの9と3/4番線で有名なKing's Cross Stationから、ケンブリッジへ。移動中に、現地のスーパーで購入した食品の成分について、佐々木先生と調査中!

健康に影響!
社会環境の公衆衛生学、運動疫学、栄養疫学について3人の研究者の方々に講義していただきました!



Trinity CollegeでのDinner!
ケンブリッジ大学のPhDの学生の方、研究者の方とDinner!

2日目：サウサンプトン大学訪問

--MRC Lifecourse Epidemiology Unit--
1920年代のコホートの記録"ledgers"!

1911年、Ethel Margaret Burnsideは、助産師と看護師の組織を作り、新生児の体重・成長過程をledgersという元帳に記録!なんと、1世紀後の現在も、ledgerは保管されていた!?

実際に、乳児が母乳、哺乳瓶のどちらで育てられていたかまで読めました!!
(Short- and Long- Term Consequences for Health, First edition, British Nutrition Foundation, 2013)



Coffee break!

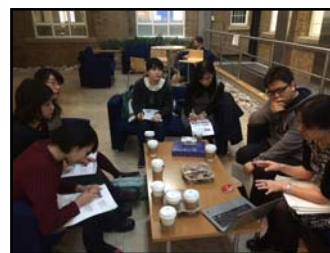
疫学の祖・John Snowを記念して建てられたPubへ。写真は、実際に、コレラ発生源となったポンプ!



4日目：London School of Hygiene and Tropical Medicine訪問

--London University--

現地で活躍される日本人の方へインタビュー!



発展途上国での作業関連疾患を研究されている方の講義中!
現地で行われている参加型セミナーの"自分で考えさせる"という方法に脱帽!
他にも、現地の研究者の方、出生力の研究をされている日本人の方にそれぞれのキャリアについてインタビュー!

目的達成率・反省点

目的達成率は、200%!!

イギリスが減塩に成功した理由、最も古いコホートの記録帳、世界で活躍される日本人のキャリアなど、多くの学びをGET! 公衆衛生・栄養疫学に対する理解が深まりました。

より高い英語力をもって、具体的・積極的に質問できればと猛反省.....



将来の進路決定へどう影響したか

「様々な経歴を持った現地の研究者、学生へのインタビューにより、進路選択の幅が大きく広がった。特に留学や海外で働くことに対する意識が高まった。」

「院進と、院での留学を真剣に考え始めた。この分野で活躍されている研究者の話を聞いて研究者としての道を検討し始めた。」

グローバルな視点とは何か

プロジェクトを成功させるために、人種・年齢・専門・職歴によらず、あらゆる人とコネクションを持ち、多様な立場からの意見を受け取れる立場にあること、また、その意見を理解し相手と議論できること



研修支援制度に望むこと・後輩へのアドバイス

どんな道に進もうと思っている人にとっても、とても刺激的な経験になるはずなので、後輩のみなさんには是非一度は海外研修に行かれることをお勧めします! 思いもよらなかった発見があったりと視野が一気に広がります。